令和５年度「教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価」報告書

阿久根市教育委員会

１「点検・評価」の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下、「法」という。）第26条の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとなっています。

【参考】　地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等） 第26条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第４項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

阿久根市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たすため、「教育委員会の点検・評価」を実施し報告書をまとめました。

なお、点検・評価の内容や報告書の様式、議会への報告方法などは、各市町村教育委員会で決定することとなっています。

２　教育委員会の概要

⑴　教育委員会の趣旨

教育に関しては、教育の機会均等、教育水準の維持・向上、地域の実情に応じた教育の振興を図るため、地方公共団体の長から独立した行政機関として「教育委員会」が置かれ、それぞれに属する権限の範囲内で相互に対等かつ独立して事務を執行しています。

よって、市の学校教育、社会教育、スポーツ、文化財等についての具体的な方針や施策は、この「教育委員会」の合議で決定されることになります。

⑵　教育委員会制度

阿久根市教育委員会は、教育長及び４人の委員で構成されており、教育長及び委員は市長が市議会の同意を得て任命します。

教育長は、教育委員会の会務を総理し、教育委員会を代表します。

また、市長は、教育行政の大綱の策定や教育の条件整備など重

点的に講ずべき施策等について協議・調整を行うため、総合教育会議を設置しています。

⑶　教育委員の構成　　（令和５年４月１日現在）

職　　名	氏　　名	任　　期	期数	備　　考
教　育　長	中　野　正　弘	令和３年５月11日 ～令和６年５月10日	2	
委　　員 （教育長職務代理者）	大　漉　孝　夫	令和３年７月１日 ～令和７年６月30日	4	
委　　員	古　賀　正　男	令和３年10月１日 ～令和７年９月30日	4	
委　　員	中　野　真　理	令和元年10月１日 ～令和５年９月30日	4	
委　　員	西　園　敦　子	令和５年２月17日 ～令和９年２月16日	4	

３「点検・評価」の内容等

⑴　事務内容等の決定

教育委員会が管理・執行する事務は、広範囲に及んでいます。

そこで、教育委員会事務局各課において、阿久根市教育振興基本計画の各課の事業について、令和４年度中の「点検・評価」を実施しました。

⑵　「点検・評価」の手順

点検・評価の実施に当たっては、令和４年度の活動や実施状況についてＡからＤの評価区分に基づき各課で自己評価を行い、その進捗状況や成果・課題を把握した上で特記事項としてまとめました。

４　全体的な教育予算及び主要事業

令和４年度の教育費の予算総額は９億3，449万円（補正第９号現在）で、市の一般会計予算総額139億9，845万円（補正第９号現在）の6．67％を占めており、教育費の予算総額は対前年度比27．2％（令和３年度決算７億3，413万円）、２億36万円の増額となっています。

教育総務課では、令和３年５月に策定した「第２次阿久根市学校規模適正化基本方針」に対し、保護者、地域の方へ意見を募り、総合教育会議、学校規模適正化協議会の意見等を踏まえ、総合的に検討した結果、基本方針の基本的な考え方等は維持しつつ、基本方針の一部変更を行いました。

主なものとして、

① 令和６年４月の統・廃合は行わないこと。

② 保護者・地域住民の意見、今後の児童生徒数の推移、複式学級の状況等を基に、引き続き、保護者・地域住民と意見交換を行い、検討を重ね、今後新たな目標を示すこと。

③ 令和６年４月から、脇本小学校・折多小学校・三笠中学校について、小・中学校が連携して教育の充実を図る小中一貫教育の取組を開始すること。

以上の３点であり、今後も基本方針の基本的な考え方に基づき、引き続き保護者・地域住民への説明・意見交換会を開催して意見等を伺うとともに、検討を重ねていきます。

学校施設の整備については、平成30年７月に策定した学校施設長寿命化計画の見直しを行い、その計画を基に順次改修を行う予定としています。その他、脇本小学校の石垣改修工事、折多小学校トイレ改修工事などを実施し、児童生徒が安心して安全に学校生活が過ごせるよう環境整備に努めてきました。

また、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金や学校保健特別対策事業補助金を活用し、自動水栓の設置やオートディスペンサーなどを購入し、校内での感染症対策の拡充を図りました。

学校教育課では、児童生徒の学力向上をめざし、諸学力調査の結果を分析・検討し、小・中・高学力向上連絡会で研修を深め、定着が不十分な内容については、管理職研修会での指導を継続してきました。その結果、年々学力は向上してきています。

また、小学校の外国語教育を進めるための支援として、ＳＥＴ加配（中学校籍の外国語の専科教員）を配置し、小学校の外国語教育の充実に努めました。一方、小学校高学年と中学校で、「こころを紡ぐメッセージ」の応募を行い、表彰するとともに、作品集を作成するなどして、生徒と保護者との心の交流を図り、互いの存在について考えを深め合うことにより、豊かな心の育成を図りました。

さらに、教員の業務支援を図り、教員が一層児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備することを目的として、地域の人材を学校に配置するスクール・サポート・スタッフ（ＳＳＳ）配置事業（県委託事業）に取り組み、業務の軽減に努めました。

生涯学習課では、市民一人一人が豊かな人生を送ることができるよう、生涯学習の推進や社会教育、自主文化事業に取り組みま

した。

社会教育事業では、県社会教育課との共催による「家庭教育支援キャラバン・親子すくすくフェスタ」を開催し、人権学習や子育てに関するテーマ学習のほか、親子ふれあい活動を実施し、保護者の子育てに関する情報交換の場としても運営することができました。

また、県ＰＴＡ活動委嘱公開阿久根市大会が開催され、家庭の教育力向上をテーマに各小・中学校の取組を紹介し、研鑽を深めることができました。

自主文化事業では、市制施行70周年記念事業として、各種コンサートや演劇等を開催し、多くの来場者に喜んでいただきました。

スポーツ推進課では、スポーツの振興や交流人口の拡大のために大規模イベントを実施していますが、令和４年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の視点からも、規模縮小を図るなどの感染対策を講じながら、ボンタンロードレース大会などのスポーツイベントを実施することができました。

また、総合運動公園の施設の利用数についても、各種県大会や全国大会が開催されるなど、コロナ禍以前の状況に戻りつつあり、感染症予防にも努めながら、施設の受入体制を整えました。

学校給食センターでは、地産地消の推進及び地元の特産品や産業等について学ぶ「学校給食地産地消推進事業」として、地元産食材を活用した給食を毎学期１回実施しました。施設等整備については、安全安心で衛生的な学校給食を提供するため、開設当初から使用している給食配送車４台のうち１台を更新購入しました。

５　学識経験者の知見を活用した点検・評価

平成22年１月12日に、阿久根市教育委員会外部評価委員会設置要綱を制定しました。今後必要に応じて、学識経験者の知見の活用を図り点検・評価を実施します。

【１　教育委員会の令和４年度活動内容】

（教育委員会機能の充実と活性化）

項　目	内　　容	活動指標		成果・課題
１　教育委員会会議の運営改善	・教育委員会定例会及び臨時会の開催	開　催回数	14回	阿久根市教育委員会の行政組織等に関する規則に基づき開催(原則毎月10日に定例会、必要に応じ臨時会を開催）し、教育委員会の基本方針を初め、規則・要綱等の制定・改正・予算等についての議案などを審議・議決した。

	・教育委員会会議の運営上の努力			議案等の会議資料を各委員に事前配布をしているが、会議の充実・効率化に向けてさらに努力が必要である。
	・移動教育委員会の開催	開催回数	０回	保護者・地域住民との話し合いの場として設定していたが、コロナウイルス感染症拡大の影響で開催できなかった。
２　教育委員会会議の公開、住民への情報発信	・教育委員会会議の傍聴者の状況	傍聴者数	４人	委員会の開催日程は、ホームページで周知している。
	・教育委員会会議記録の公開の状況	情報公開請求件数	０件	教育委員会の会議録は記録者が作成し、教育委員の署名により承認している。さらに、会議録は、平成28年度からホームページで公開している。
	・移動教育委員会の状況	開催回数	０回	保護者・地域住民との話し合いの場として設定していたが、コロナウイルス感染症拡大の影響で開催できなかった。
３　教育委員と事務局との連携	・教育委員会における情報の共有		定例教育委員会時及び随時	定例教育委員会等において、教育委員の事務執行報告及び事務局の行事等についての報告を行い、情報の共有を図っている。
４　教育委員の研修体制の充実	・研修会等への参加	参加回数	４回	国・県の研修会への参加に取り組み、教育分野における諸問題を解決できる能力の向上に努めた。
５　学校等の教育施設の訪問等	・教育委員訪問	訪問回数	６回	教育委員訪問については１学期に５校訪問し、学校の運営状況の聴取及び学校施設の視察を行っている。 訪問のない６校については、７月及び８月の定例教育委員会後に学校経営説明会を開催し、各校長から説明を受けている。 また、「キャリア教育」研究協力校研究公開が折多小と鶴川内中で開催され、出席している。
	・その他の学校訪問など	訪問回数	随時	入学式、卒業式、運動会などの学校行事では、各学校を訪問し出席しているが、令和４年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、いずれも見合わせている。 しかし、感染者数の減少に伴い活動する機会が増え、感染対策に万全を期しながら、市中学校英語暗唱弁論大会や二十歳のつどい、市長旗九州選抜高校駅伝競走大会などのスポーツ、文化や生涯学習分野への参加、また、学校規模適正化協議会の委員と

				して、将来の学校規模の在り方に関し、保護者や地域の代表者と意見を交わすなど、可能な限り参加することに務めた。

自己（各課）評価基準

評価	評価区分	考え方
A	・計画どおり進んでいる ・十分な成果が見える	優れた取組みや状況等が見られ、改善を必要せず、計画どおり順調に進んでいる
B	・概ね計画どおり進んでいる ・成果が見える	良い取組みや状況が見られ、若干の課題もあるが、概ね計画どおりに進んでいる
C	・計画がやや遅れがちである ・成果が見えるが改善が必要	一定の成果が見られるものの、課題も見られ、計画もやや遅れがちである
D	・計画が大幅に遅れている ・抜本的な見直しが必要	課題が多く着手できていないか、着手したが成果が見られず計画も遅れがちである

教育基本計画にかかる各課の事業一覧と自己評価

方向性

１　子供の可能性を伸ばします

〈主体的、相互の学び〉

基本施策

(1) 確かな学力の定着

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
学力実態把握事業	各種学力検査により、児童生徒の学力の実態を把握します。	学校教育課	A	A				継続した取組から、各種調査で成果が表れている。
教科・領域等部会研修事業	教科・領域ごとに部会を編成し、それぞれの指導法改善に向けて研修を行います。	学校教育課	B	B				概ね計画どおり進んでいるが、教科によって改善を図る必要がある。
小・中・高学力向上推進協議会	小・中学校と鶴翔高等学校が共通のテーマを設定し、研究授業を通して学習指導法の改善に取り組みます。	学校教育課	A	A				継続した取組から、各学校における指導の平準化が図られ、指導方法の改善が図られている。
校内研修指導	校内研修に指導主事等を派遣し、学習指導法の改善に向けて指導・助言を行います。	学校教育課	A	A				各学校の希望に応じ、計画通り派遣できており、計画以外の訪問も行った。
英語指導法研修会	研究授業を通して、英語の指導法について研修します。	学校教育課	A	A				県の中学校英語教育研究大会と兼ねて実施

								できた。
土曜授業	指定月の第２土曜日に３時間の授業を実施し、基礎学力等の定着を図ります。	学校教育課	A	A				計画通り実施でき、時数を確保できた。
年次別研修の充実	フレッシュ、ステップアップ、パワーアップ研修を支援し、授業研究等を通して指導・助言を行います。	学校教育課	A	A				計画通り実施できた。

(2) 特別支援教育の充実

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
特別支援教育支援員配置事業	特別な支援を必要とする通常学級に在籍する児童生徒に対する支援を図ります。	学校教育課	B	A				兼務校をつくり、より多くの学校に支援員を配置し、支援の充実を図ることができた。
就学相談事業	児童生徒の実態に応じた教育支援を行うために、就学相談を行います。	学校教育課	A	A				日程の再調整を行い、学校や園、保護者の要望に応じて、計画通り実施できた。
特別支援学校連携事業	特別支援学校と連携を図り、適切な就学のための相談活動を	学校教育課	A	A				各学校の児童生徒の実態に応じて、計画通り

	行います。							実施できた。
特別支援教育に関する研修会	障害の内容や程度に応じた適切な指導法等に関する研修を行い、教職員の指導力の一層の向上を図ります。	学校教育課	B	A				昨年度の反省を生かし、園や療育機関からも多くの参加があり、研修内容と連携の充実を図ることができた。
特別支援教育部会研修会	個別の事例への対応法等に関する研修を行い、特別支援教育担当教員の指導力の一層の向上を図ります。	学校教育課	B	B				特別支援学級の教育課程編成や自立活動の指導力向上に向けて、今後も充実させていく必要がある。
市教育支援委員会	障害又は障害の疑いのある幼児及び児童生徒について、適切な就学相談及び就学判断を行います。	学校教育課	A	A				必要な幼児及び児童生徒に対して、適切に就学判断をすることができた。

(3) 主体的・対話的で深い学びの実現

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
教科・領域等部会研修事業（再掲）	教科・領域ごとに部会を編成し、それぞれの指導法改善に向けて研修を行います。	学校教育課	B	B				概ね計画どおり進んでいるが、教科によって改善を図る必要がある。
小・中・高学力向上推	小・中学校と鶴翔高等学校が共通のテーマを	学校教育課	A	A				阿久根小、鶴川内中、鶴翔高が授業提供し

進協議会（再掲）	設定し、研究授業を通して学習指導法の改善に取り組みます。							た。継続した取組から、各学校における指導の平準化が図られ、指導方法の改善が図られている。
校内研修指導（再掲）	校内研修に指導主事等を派遣し、学習指導法の改善に向けて、指導・助言を行います。	学校教育課	A	A				各学校の希望に応じ、計画通り派遣できており、計画以外の訪問も行った。
英語指導法研修会（再掲）	研究授業を通して、英語の指導法について研修します。	学校教育課	A	A				県の中学校英語教育研究大会と兼ねて実施できた。

〈創造する力の育成〉

基本施策

(1) キャリア教育（あくねよかとこ教育）の充実

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
あくねよかとこ教育事業	児童生徒に、進んで地域とつながり、地域のよさを知り、わかったことを発信することを通して、ふるさとへの愛着と誇りを醸成し、自分の将来を切り拓き、自立して生きていく力を育成するためのキ	学校教育課	A	A				令和３、４年度の２か年で、県の研究指定を折多小、鶴川内中が公開授業を行った。 各学校で、地域の人材を活用した研究を進めた。

	ャリア教育を推進します。							

(2) ＩＣＴ環境の整備

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
ＧＩＧＡスクール事業	小・中学校の全児童生徒に配備した１人１台の学習用端末等のＩＣＴ機器の効果的な活用による教育環境の向上を図ります。	教育総務課	A	A				今年度はタブレットの持帰り学習を実施するため100台配備した。また、指導者用タブレットをタッチパネル式の端末を導入し教育環境の向上を図ることができた。
市情報教育担当者会	１人１台の端末を活用した授業改善の方向性や、具体的な実践について説明する研修会を実施します。	学校教育課	A	A				外部講師を招聘し、オンラインにより計画通り実施できた。
ＩＣＴソフト説明会	校務支援ソフトやプログラミング教材の活用方法に関する研修会を行います。	学校教育課	A	A				年間２回の情報教育部会において、計画通り実施できた。

(3) 豊かな感性や想像力を育む教育の充実

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
市図画作品展	児童生徒の美術的表現力の向上に期するため、図画作品を募集するとともに、審査会を行い、表彰します。	学校教育課	A	A				計画通り実施できた。入賞作品は、「心をつむぐメッセージ」の挿絵として活用した。
市作文コンクール	児童生徒の作文力の向上に期するため、作文を募集するとともに、審査会を行い、表彰します。	学校教育課	A	A				計画通り実施できた。文集あくねとして作品集を作成した。
市読書感想文コンクール	児童生徒の想像力の育成、表現力の向上に期するため、感想文を募集するとともに、審査会を行い、表彰します。	学校教育課	A	A				計画通り実施できた。文集あくねとして作品集を作成した。
市小・中・高音楽会	児童生徒の音楽的表現力の向上に期するとともに、専用ホールでの演奏及び鑑賞を体験させるため、音楽会を実施します。	学校教育課	B	—				新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため中止したが、令和5年度は実施する予定である。
市小・中学校弁論大会	児童生徒に、自分の考えを多くの人前で発表	学校教育課	A	A				新型コロナウイルス感染対策を

	できる態度や表現力を育成するために弁論大会を実施します。							万全にし、開催することができた。

〈学びや成長の連続性〉

基本施策

(1) 幼・保・小連携の充実

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
市教育支援委員会	子供一人一人の教育的ニーズに応じた支援を保障するために、乳幼児期を含め早期から教育相談や就学相談を行うとともに、本人・保護者に十分情報を提供し、本人・保護者と学校、教育委員会が教育的ニーズと必要な支援について合意形成を図れるよう、教育支援委員会を実施します。	学校教育課	A	A				必要な幼児及び児童生徒に対して、適切に就学に向けた判断をすることができた。
幼・保・小連絡会	入学予定の小学校において、子供一人一人が生活の変化に対応し、義務教育及びその後の教育において、実り多い生活や学習を展開できる	学校教育課	B	B				概ね計画どおり実施できたが、今後も園と学校、療育機関との連携を充実させていく必要がある。

	よう、保育園やこども園と小学校が相互に教育内容を理解したり、子供同士の交流を図ったり、指導方法の工夫改善を図ったりなどすることを目的として実施します。							
スタートカリキュラム	小学校へ入学した子供が、幼稚園･保育園･認定こども園などの遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムを、各小学校において作成するとともに、実際の学校生活で活用します。	学校教育課	A	A				各学校において作成・見直しを図り、新入生への指導に活用している。

(2) 小中一貫教育の推進

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
小・中一貫教育推進事業	小・中連携の指導体制による小中一貫教育（連携型）の研究校（小２・中１）を指定し、指	学校教育課	B	A				小・中一貫教育推進に係る準備委員会を設置し、共通実践事項等を含

	定校に「小・中一貫教育推進協議会」を設置します。							め取組の検討を行った。

(3) 体力・運動能力の向上

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
体力・運動能力調査事業	体力・運動能力調査の結果をもとに、指導の充実を図ります。	学校教育課	A	A				計画通り実施でき、市全体の課題が明確になり、指導に活用した。
教科体育の充実と体力つくり活動の推進	「一校一運動」の推進や「体力アップ！チャレンジかごしま」への取組の推進、学校体育の充実のための研修会を開催します。	学校教育課	A	A				全学校が「体力アップ！チャレンジかごしま」に取り組み、計画通り実施できた。
小学校陸上記録会・水泳記録会	陸上記録会、水泳記録会を開催し、記録向上等に向けて、小学校体育の充実を図ります。	学校教育課	A	A				新型コロナウイルス感染症の対策として、規模を縮小したが、計画通り開催することができた。
武道等地域連携推進事	外部指導者の派遣や研修会への参加を通して、中学校の武道等の安全確保及び指導の充実	学校教育課	B	B				令和4年は外部指導者の派遣はなかったが、各学校の担当が研修会

	を図ります。							に参加した。
競技会等出場補助事業	中学校の県外試合出場等の助成を行います。	学校教育課	A	B				令和4年度の文科系部活動については実績はなかった。

〈支え合いの醸成〉

基本施策

(1) 考え・議論する道徳教育の充実

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
市道徳教育指導法研修会	学校を会場に、各学校の道徳教育推進教員及び管理職等を対象に、研究授業を通した研修を行います。	学校教育課	A	A				年間を通して計画的に取り組むことができ、市内の学校に成果を還元することができた。
校内研修会への指導主事等の派遣	校内研修を通して、道徳の時間における指導法及び道徳教育全般に係る指導・助言を行います。	学校教育課	A	A				計画通り実施できた。
こころを紡ぐメッセージコンクール	児童生徒と保護者との心の交流を図り、互いの存在について、考えを深め合う言葉の作品を募集し、作品集を作ります。	学校教育課	A	A				計画通り実施できた。 全学校から児童生徒、保護者のメッセージ599点の応募があり、審査の結果の中から20点を掲載して冊子

								を作製した。

(2) 人権教育の充実

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
人権教育推進事業	各種研修会への参加及び校内研修の充実を図ります。	学校教育課	B	A				研修会への参加については計画通り実施できた。 校内の人権教育に関しては、管理職研修会や校内研修を実施し、その重要性について、繰り返し指導を行った。

(3) 体験活動の充実

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
体験活動の推進	食農教育や文化継承活動など、地域に根ざした体験活動を推進します。	学校教育課	B	A				新型コロナウイルス感染症の感染拡大の対策を講じながら実施した。
集団宿泊学習支援事業	集団宿泊学習への補助を行います。	学校教育課	A	A				新型コロナウイルス感染症の対策を講じ、各学校で工夫した内容で実施した。

方向性

2　魅力ある学校をつくります

〈安心して学べる学校〉

基本施策

(1) 安全・安心な学校づくり

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
学校施設等維持補修事業	校舎等において、老朽化などにより修繕が必要な個所の維持補修を行います。 児童生徒が安全・安心の中で充実した教育活動が行えるよう、施設の維持・修繕に努めます。	教育総務課	B	B				校舎等の老朽化により、修繕が必要な個所が増えている。 緊急性を考慮し、優先順位を付け、施設の維持・修繕に努めてた。
学校施設等整備事業	学校規模適正化の状況と合わせ、平成30年7月に制定した阿久根市学校施設長寿命化計画に基づき、大規模改修や改築による整備を行います。 また、トイレの洋式化を進めます。	教育総務課	B	B				今年度は計画の見直しを実施した。これに基づき、老朽化した学校施設学校規模的適正化に関する検討との整合性を図りながら大規模改修を計画的に進める。 また、折多小学校１２号棟トイレ

								は便器を洋式に照明をＬＥＤとし環境を整えた。今後も計画に沿って洋式化を進める。
教職員住宅維持管理事業	老朽化した教職員（校長・教頭）住宅の維持修繕等を行います。	教育総務課	B	B				修繕が必要な住宅を修繕し維持することができたが、老朽化が進んでいる住宅であるため、今後は修繕等が増加する見込みである。

(2) 生徒指導の充実

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
県スクールカウンセラー配置事業	問題行動、不登校等に適切に対応するために、スクールカウンセラーを配置します。	学校教育課	A	A				各学校の要望に応え、適切に配置することができた。
スクールソーシャルワーカー配置事業	関係機関との連携・調整を図り、児童生徒に関する諸問題の解決を図ります。	学校教育課	A	A				各学校の要望を受け派遣を行い、諸問題等解決できた。
いじめ等相談	問題行動・いじめ・不登校等	学校教育課	A	A				相談件数は０件であ

事業	の未然防止、早期発見・指導のため、臨床心理士等による教育相談を実施します。							ったが、学校からの依頼を受け、ＳＳＷを派遣することができた。
市中学生会議	各中学校の生徒会を中心に、中学生を取り巻く課題について協議する会議を行います。	学校教育課	A	A				計画通り実施でき、諸課題について協議することができた。
カウンセリング研修会（隔年）	カウンセリング技術、日常的な児童生徒への接し方等に関する研修を行います。	学校教育課	―	―				令和４年度の実施はなかった。
生活指導研究協議会	児童生徒の健全な成長を図るために、全職員一丸となった指導態勢の確立及び具体的な指導についての研修を行います。	学校教育課	A	A				ヤングケアラー等の諸課題について協議を行った。
いじめ問題対策連絡協議会いじめ問題対策委員会	「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止対策について協議等を行います。	学校教育課	A	A				生徒指導提要の改訂に関するいじめ問題への対応について議論を行い、出された意見を基に、各学校へ指導を行った

適応指導教室（あくねす）	不登校の状況にある児童生徒を対象に、相談、学習等を行い、学校復帰への支援を行います。	学校教育課	A	B				1名が相談と試し通室を実施した。 継続して、各学校の不登校の児童生徒にあくねすを紹介するよう指導する。

(3) 良好な人間関係・集団づくり

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
「こころを紡ぐメッセージ」コンクール（再掲）	児童生徒と保護者との心の交流を図るとともに、互いの存在について考えを深め合うことにより、豊かな心の育成を図ります。	学校教育課	A	A				計画通り実施でき、作品集を作成した。
道徳教育推進事業	学校や地域の特色を生かした道徳教育の工夫･改善を図り、学校･家庭･地域が連携･協力し、児童生徒の道徳性の育成に努めます。	学校教育課	A	A				脇本小学校で、当初の計画通り実施できた。市内全ての学校から参加があり、ＩＣＴ活用も含めた指導法の改善を図ることができた。
市道徳教育指	研究授業を通した研修会を開	学校教育課	A	A				脇本小学校で、当初の

導法研修会（再掲）	催し、具体的な道徳授業の指導方法について研修します。							計画通り実施できた。市内全ての学校から参加があり、ＩＣＴ活用も含めた指導法の改善を図ることができた。
県スクールカウンセラー配置事業（再掲）	スクールカウンセラーを配置し、問題行動、不登校等に適切に対応します	学校教育課	A	A				各学校の要望に的確に応えることができた。
スクールソーシャルワーカー配置事業（再掲）	スクールソーシャルワーカーを配置し、関係機関等との連携・調整を図ります。	学校教育課	A	A				各学校の要望を受け派遣を行い、諸問題等解決できた。
いじめ等相談事業（再掲）	問題行動・いじめ・不登校等の未然防止、早期発見・指導のため、臨床心理士等による教育相談を実施します。	学校教育課	A	A				相談件数は０件であったが、学校からの依頼を受け、ＳＳＷを派遣することができた。

〈地域とつながる学校〉

(1) 学校経営の充実

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
校長研修会	年７回、校長を対象にした研	学校教育課	A	A				計画通り年７回実施

	修会を実施し、学校経営等に係る指導・助言等を行います。							するとともに、協議の時間を設け、校長の学校経営を充実したものにすることができた。
教頭研修会	年７回、教頭を対象にした研修会を実施し、学校運営等に係る指導・助言等を行います。	学校教育課	A	A				計画通り年７回実施するとともに、課題を集約して協議し、各学校における取組に生かすことができた。
学校訪問 学校経営説明会	教育委員と事務局職員による学校訪問を実施し、学校運営等に係る指導・助言等を行います。 教育委員の訪問を実施しなかった学校については、学校経営説明会を実施し、校長が教育委員に学校の状況等の説明を行います。	学校教育課	A	A				全ての学校に対して学校運営に係る指導・助言を行うことができた。

(2) 学校運営協議会の設置・推進

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
学校運	本年度の年間	学校教	A	A				全ての学

営協議会	計画、活動等に確認するとともに、各学期の活動等についての話合いを行います。 各学期の評価・反省を行うとともに、次年度の教育課程、教育活動等について確認します。	育課						校が学校運営協議会を設置した。学校運営の充実をめざした協議を行うことができた。

(3) 開かれた学校づくり

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
学校運営協議会	地域住民による学校訪問や授業参観の機会を増やすとともに、学校教育活動への評価・提言を行う学校運営協議会を計画的に実施します。	学校教育課	A	A				全ての学校が学校運営協議会を設置した。学校運営の充実をめざした協議を行うことができた。
「信頼される学校づくりのための委員会」事業	教職員のモラルや規範意識の向上のための「信頼される学校づくりのための委員会」を、年間3回開催します。	学校教育課	A	A				年5回の学校運営協議会において、服務規律の厳正確保に向けた各学校の取組を公表した。

〈いきいきと働く教職員〉

(1) 教職員の働き方改革の推進

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
特定事業主行動計画	仕事と家庭の両立及びワーク・ライフ・バランスの実現等を支援するために策定し、次世代育成支援対策を推進します。	学校教育課	A	A				出産補助休暇や育児休暇等を取得しやすい環境づくりに努めた。令和4年度は、男性の育児休暇の取得があった。
校務支援	新学習指導要領の全面実施に係り、ＩＣＴ教育を進めるための整備、校務支援システムの構築を図ります。	教育総務課 学校教育課	A	A				通知表や指導要録の作成において校務支援システムを活用した。 ２つが連動することにより、大幅な業務改善に寄与している。
働き方改革に関する意識改革	意識啓発のために、各学校における取組を共有する場を設けるとともに、各学校への具体の働きかけを推進します。	学校教育課	A	A				令和4年度は、業務改善に係るフォローアップ調査を行い、業務改善を実感している職員の割合が 70％であった。
スクール・サポ	教職員の業務支援を図り、教	学校教育課	A	A				令和4年度は、県の事

ート・スタッフ（ＳＳＳ）配置事業	職員が一層児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備することを目的に、多様な地域人材を活用する取組を実施します。							業で阿久根小学校に配置した。職員の業務を軽減することができた。

(2) 学校の業務改善の支援

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
小・中学校における業務改善方針	教職員の業務の総量の削減を図り、質の高い教育の維持・発展を図るため、「小・中学校における業務改善方針」を踏まえ、実行可能な取組を速やかに実施します。	学校教育課	A	A				校務支援システムの導入により超過勤務時間を軽減することができた。また、質の高い教育の維持・発展のため、授業の在り方について継続して指導した。
リフレッシュウィーク	毎年８月１１日から１７日の期間をリフレッシュウィークと設定します。この期間は、学校行事等を実施しないこととし、休暇を取得しやすい環境をつくります。	学校教育課	A	A				期間中に行事等を設定せず、計画通りに実施することができた。

夏季休業日の学校閉庁日	毎年８月１３日から１５日の期間を学校閉庁日と設定します。この期間は、特に勤務を必要としないこととし、休暇を取得しやすい環境をつくります。	学校教育課	A	A				計画通り実施した。各学校において休暇を取得しやすい環境を整備した。
部活動休業日	中学校は、週２日（平日１日及び週休日１日）の部活動の休業日を設定します。	学校教育課	A	A				各学校が設定した部活動ガイドラインに沿って適切に実施された。

(3) チーム体制の構築

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
教職員の人事評価制度の積極的活用	管理職の日々の授業参観等に基づいた職員指導と評価の在り方について指導助言を行い、教職員の一層の資質向上が図れるよう、教職員の人事評価制度を積極的に推進します。	学校教育課	A	A				管理職研修会において、職員の人事評価やその後のフィードバックについて研修した。各学校において人事評価が適切に実施された。
小学校高学年における一部教科担任制の	小学校において、学年が上がるにつれて学校に困り感を抱く児童が増える教科において、専	学校教育課	B	B				ＳＥＴ加配を活用した外国語の指導や理科、音楽専科の活用を図っ

導入	科教員が教える教科担任制に取り組みます。							た。
スクール・サポート・スタッフ（SSS）配置事業（再掲）	主として教員の業務支援を図り、教員が一層児童への指導や教材研究等に注力できる体制を整備することを目的に、多様な地域人材を活用する取組を実施します。	学校教育課	A	A				令和4年度は、県の事業で阿久根小学校に配置した。職員の業務を軽減することができた。

〈学び続ける教職員〉

(1) 教職員の資質の向上

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
校長研修会（再掲）	年7回、研修会を実施し、学校経営等に係る指導・助言等を行います。	学校教育課	A	A				計画通り年7回実施するとともに、協議の時間を設け、校長の学校経営を充実したものにすることができた。
教頭研修会（再掲）	年7回、研修会を実施し、学校運営等に係る指導・助言等を行います。	学校教育課	A	A				計画通り年7回実施するとともに、課題を集約して協議し、各学校における取組に生かすことができた。
校内研修会へ	校内研修に指導主事等を	学校教育課	A	A				計画通り実施できた。

の指導主事等の派遣（再掲）	派遣し、学習指導法の改善に向けて指導・助言を行います。							係長を含む指導主事３名で、年間５０回の指導・助言を行い、本市における学力向上の取組を平準化することができた。
教職員の人事評価制度の積極的活用（再掲）	管理職の日々の授業参観等に基づいた職員指導と評価の在り方について指導・助言を行い、教職員の一層の資質向上が図れるよう、教職員の人事評価制度を積極的に推進します。	学校教育課	A	A				管理職研修会において、職員の人事評価やその後のフィードバックについて研修した。各学校において人事評価が適切に実施された。
市指定研究協力校制度（再掲）	市の研究協力校として学校を指定し、研修支援を行い、研究成果を他校へも還元します。	学校教育課	A	A				令和３、４年度の２年間、県の指定である「キャリア教育」の指定を受け、校内研修を充実させることができた。
年次別研修（再掲）	フレッシュ、ステップアップ、パワーアップ研修を支援し、授業研修等を通して指導・助言を行いま	学校教育課 生涯学習課	A	A				計画通り、実施でき、職員の資質向上を図ることができた。

	す。							
臨時的任用教員等研修	臨時的任用教員等を対象とした研修会を実施し、教職員としての資質向上と授業力の向上を図ります。	学校教育課	A	A				対象枠を拡大し、参加者同士で協議を行う時間を増やしたことで、充実した研修内容にすることができた。
「かごしま教員育成指標」の積極的活用	教職員が効果的・継続的に研修に取り組み、キャリアアップを図ることができるよう、県が作成した教員育成指標を積極的に活用します。	学校教育課	A	A				管理職研修会において、資料を基に説明するとともに、各学校において活用を指導した。令和５年度から、新しい育成指標をもとに研修に取り組む。
「信頼される学校づくりのための委員会」事業（再掲）	教職員のモラルや規範意識の向上のための委員会（学校運営協議会）を年間３回開催します。	学校教育課	A	A				年５回の学校運営協議会において、服務規律の厳正確保に向けた各学校の取組を公表した。

(2) 学び続ける教職員の環境づくり

事業名	事業内容	担当課	３年度評価	４年度評価	５年度評価	６年度評価	７年度評価	評価の理由
学び続ける教職員の支援	教職員が効果的・継続的に研修に取り組み、キャリアアップを図ることができるよう、県が	学校教育課	A	A				管理職研修会において、資料を基に説明するとともに、各学校におい

	作成した教員育成指標を積極的に活用します。							て活用を指導した。
臨時的任用教員等研修（再掲）	臨時的任用教員等を対象とした研修会を実施し、教職員としての資質向上と授業力の向上を図ります。	学校教育課	A	A				対象枠を拡大し、参加者同士で協議を行う時間を増やしたことで、充実した研修内容にすることができた。
校内研修会への指導主事等の派遣（再掲）	校内研修に指導主事等を派遣し、学習指導法の改善に向けて指導・助言を行います。	学校教育課	A	A				計画通り実施できた。 係長を含む指導主事３名で、年間５０回の指導・助言を行い、本市における学力向上の取組を平準化することができた。
市指定研究協力校制度（再掲）	市の研究協力校として学校を指定し、研修支援を行い、研究成果を他校へ還元します。	学校教育課	A	A				令和３、４年度の２年間、県の指定である「キャリア教育」の指定を受け、折多小、鶴川内中が公開研究授業を行った。
年次別研修（再	フレッシュ、ステップアッ	学校教育課	A	A				計画通り、実施できた。

掲)	プ、パワーアップ研修を支援し、授業研修等を通して指導・助言を行います。	生涯学習課						

(3) 社会の変化に対応した人材の育成の強化

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
情報教育のサポート	パソコンやインターネット、書画カメラ等の情報機器の学習指導への活用について指導・助言を行います。	学校教育課	A	A				年間2回の情報教育部会、及び日々の訪問において実施できた。
プログラミング教育	各学校において、プログラミングを体験しながらコンピュータに意図した処理を行わせる等、論理的思考力を身に付けるための学習活動を推進します。	学校教育課	A	A				各小学校に年間5回教材を貸し出し、計画的に活用するとともにビジュアルプログラミング教材の研修を行った。
環境教育	各学校や地域の実態に応じた環境教育を推進します。	学校教育課	A	A				脇本小学校のウミガメ保全など、各学校で体験活動を通した環境教育を行った。
福祉・ボランティア活動	発達段階を踏まえた「福祉の心」を育てる教育の推進を図り	学校教育課	B	A				総合的な学習の時間に位置付けることで、各

	ます。							学校において適切に実施した。
消費者教育・租税教育・金融教育	金銭・金融感覚をもった児童生徒の育成を図る教育を推進します。	学校教育課	A	A				教育課程に位置付け、教科の内容として各学校が実施するよう指導した。

方向性

３　教育環境の充実を図ります

〈家庭教育の支援〉

基本施策

(1) 家庭の教育力の向上と家庭への支援

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
就学援助費支給事業	経済的な理由により就学が困難と認められる児童生徒の保護者に、就学援助費を支給します。	教育総務課	A	A				国の事業を活用し、給食費の半額補助を実施した。さらに就学支援費を支給することで、保護者の経済的負担の軽減が図られた。
特別支援教育就学奨励費支給事業	特別支援学級に就学している児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、就学奨励費を支給します。	教育総務課	A	A				国の事業を活用し、給食費の半額補助を実施した。さらに特別支援教育就学奨励費を支給することで、保護者の経済的負担の軽減が図られた。
奨学金貸付事業	経済的な理由により、大学などへの就学が困難な学生に対し、奨学金を支給します。	教育総務課	A	A				奨学金を貸し付け、就学が困難な学生への経済的負担の軽減が図ら

								れた。
濵風ゆめみらい奨学金貸付事業	医学を学ぶ者及び外国の大学等に留学する者に対し、奨学金を支給します。	教育総務課	C	C				本年度に初めて１件の申請があったものの、活用まで至らなかった。利用しやすくするため、要綱の改正を含め検討する必要がある。
家庭教育支援事業	関係団体との連携や家庭教育学級の開設により、家庭教育力の向上を図ります。	生涯学習課	B	A				地区ＰＴＡ養成事業や阿久根市で開催した県ＰＴＡ活動委嘱公開において研修し、家庭教育の学びを深めた。また、県との共催で「親子すくすくフェスタ」を実施した。 全小・中学校で家庭教育学級を開設し、家庭教育力向上を図った。
学習サポート教室	経済的な理由などにより、学習環境面で悩みを抱えている世帯の子供を対象に「学習サポート教室」を開催します。	福祉課	B	C				貧困世帯を対象とした事業であるため、周知には特段の配慮を必要とする。また、講師の確

								保も大変厳しい状況である。 そのような中、昨年度と同程度の利用があり、基礎学力の向上や学習習慣の形成を図ることができた。 ただし、中学生においては、講師と生徒の部活動の時間の都合が合わず、利用者が減少した。

(2) 幼児教育の充実

事業名	事業内容	担当課	3年度 評価	4年度 評価	5年度 評価	6年度 評価	7年度 評価	評価の理由
教育支援委員会	就学前の子供について、幼児教育から小学校の円滑な接続を図ります。	学校教育課 福祉課 健康増進課	A	A				必要な幼児及び児童生徒に対して、適切に就学に向けた判断をすることができた。
地域子育て支援事業	子育て親子の交流を促進し、子育ての不安等を緩和するとともに、子供の育ちを支援しま	福祉課	A	A				感染防止策を講じながら、子育て支援センターを2か所で実施し、育

	す。							児不安を抱える保護者への相談支援等を実施した。
保育園等整備事業	保育環境の改善のため、園舎の老朽化等による整備事業に補助します。	福祉課	－	－				事業実績はなかった。

(3) 健康教育・食育の充実

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
健康教育推進事業	各種健康診断を実施するとともに、市学校保健会や関係機関と連携して、保健教育の充実を図ります。	学校教育課	A	A				コロナ禍のため開催方法の変更や感染対策を講じることで、計画通り実施することができた。
定期健康診断	定期健康診断の結果を基に、疾病の治癒等を推進します。	学校教育課	A	A				診断結果を基に、各職員に通知するとともに、再受診について確認をした。
栄養教諭の派遣・活用	各小・中学校に栄養教諭を派遣し、食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化等の指導に	学校教育課 学校給食センター	B	B				各学校に栄養教諭の派遣を年51回計画していたが、職員1名が休職したこともあり、計画の

	取り組みます。 　また、食中毒やアレルギーの防止に関する指導等を行います。							70％（38回）程度の派遣であった。
食に関する指導	栄養教諭を各学校に派遣し、食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化等の指導に取り組みます。 　各小・中学校に対して、食中毒やアレルギーの防止に関する指導等を行います。	学校教育課 学校給食センター	B	B				各学校に栄養教諭の派遣を年51回計画していたが、職員1名が休職したこともあり、計画の70％（38回）程度の派遣であった。
給食センター備品等購入事業	老朽化した厨房用備品等については取り替え、学校給食の提供に必要な備品等の適切な管理を行います。	学校給食センター	B	B				予算化された給食配送車については、計画通り、購入することができた。コンテナ洗浄機等についても部分的な修繕を行い、給食の提供に支障をきたさないよう適切な管理を行った。

学校給食地産地消推進事業	地元産の食材や加工品を学校給食に取り入れ、阿久根の食の魅力を児童生徒に伝えます。 学期毎に阿久根産の食材を活用した給食を提供することにより、地産地消や地元産の食材等への関心を深め、食文化、地元特産品及び地域の産業について学ぶ食育を推進します。	学校給食センター	B	B				学期毎に地元産食材を使用した給食を提供することができ、地産地消や地元産の食材等への関心を深めることができた。献立については、恒常化しているため、地元食材の安定した調達ができるよう関係課とも連携をとり検討する必要がある。

〈安全・安心な環境〉

(1) 学校規模の適正化の推進

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
学校規模適正化事業	児童生徒に等しく良好な教育環境の向上をめざし、学校規模の適正化を進めます。	教育総務課	C	C				第2次学校規模適正化基本方針について、令和3年度末を期限とし、保護者・地域から意見を募り、総合教育会議、学校規模適正化協議会の意

								見等を踏まえ、総合的に検討した結果、基本方針の基本的な考え方等は維持しつつ、令和６年４月の統・廃合は行わない等の一部を変更した。

(2) 児童生徒の安全確保

事業名	事業内容	担当課	3年度 評価	4年度 評価	5年度 評価	6年度 評価	7年度 評価	評価の理由
スクールガード・リーダー配置事業	児童生徒の安全確保のため、スクールガード・リーダーを活用するとともに、スクールガードの育成を図ります。	学校教育課	A	A				各小学校区に適切に配置し、計画通り実施することができた。また、地区の研修会にスクールガードリーダーと担当が参加した。
市安全指導研修会	地震、津波等の非常災害時の危機管理、不審者事案に対する対応、安全に関する取組の充実を図るため、研修会を実施します。	学校教育課	B	A				不審者対応について外部講師を招聘し、充実させることができた。
市水難	水難事故の防	学校教	B	A				計画通り

事故・交通事故防止対策連絡会	止及び交通安全教室によるヘルメット着用の徹底と地域ぐるみの交通事故０運動の実践に努めます。	育課						実施でき、関係機関と学校が意見を交換できた。

(3) 良好な教育環境の整備

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
学校施設等維持補修事業（再掲）	校舎等において、老朽化などにより修繕が必要な個所の維持補修を行います。 児童・生徒が安全・安心の中で充実した教育活動が行えるよう、施設の維持・修繕に努めます。	教育総務課	B	B				校舎等の老朽化により、修繕が必要な個所が増えている。 緊急性を考慮し、優先順位を付け、施設の維持・修繕に努めた。
学校施設等整備事業（再掲）	学校規模適正化の状況と合わせ、平成30年７月に制定した阿久根市学校施設長寿命化計画に基づき、大規模改修や改築による整備を行います。 また、トイレの洋式化を進めます。	教育総務課	B	B				今年度は計画の見直しを実施した。これに基づき、老朽化した学校施設学校規模的適正化に関する検討との整合性を図りながら大規模改修を計画的に進める。

								また、折多小学校１２号棟トイレは便器を洋式に照明をＬＥＤとし環境を整えた。今後も計画に沿って洋式化を進める。
教職員住宅維持管理事業（再掲）	老朽化した校長・教頭住宅の維持補修を行います。	教育総務課	B	B				修繕が必要な住宅を修繕し維持することができたが、老朽化が進んでいる住宅であるため、今後は修繕等が増加する見込みである。

〈市民の豊かな学び〉

(1) 生涯学習の推進

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
生涯学習推進事業	生涯学習講座や社会教育学級を開設し、市民の学習環境の充実と生きがいづくりに努めます。	生涯学習課	A	A				生涯学習講座22講座を開設（新規講座５）し、１講座当たりの回数を増やす等、工夫した取組ができた。
生涯学	生涯学習活動	生涯学	C	B				生涯学習

習フェア	の発表等を通して、生きがいのある住みよいまちづくりに取り組みます。	習課						講座生の素晴らしい発表と工夫された作品を展示することができた。
各種研修会支援事業	各種研修会を開催し、お互いに支え合う地域づくりに対する意識の高揚を図ります。	生涯学習課	B	B				子ども会、育成会、ＰＴＡ、公民館長、女性団体など、各種団体の研修会開催を支援するとともに、各種研修会への参加支援もできた。
社会教育関係団体指導者養成事業	社会教育関係団体の指導者を養成し、各団体の活動の充実と活性化を図ります。	生涯学習課	B	B				地区で開催されている各種社会教育関係団体指導者養成事業への参加を奨励し、指導者養成を図った。
地域学校協働活動推進事業	学びの成果を学校支援活動に生かすことのできる態勢づくりを進めます。	生涯学習課	B	B				全小・中学校で、地域の方々による学校教育活動の支援を行うことができた。支援ボランティアの確保が課題である。

家庭教育支援事業（再掲）	関係団体との連携や家庭教育学級の開設により、家庭教育力の向上を図ります。	生涯学習課	B	A				地区ＰＴＡ養成事業や阿久根市で開催した県ＰＴＡ活動委嘱公開において研修し、家庭教育の学びを深めた。また、県との共催で「親子すくすくフェスタ」を実施した。 全小・中学校で家庭教育学級を開設し、家庭教育力向上を図った。
「青少年育成の日」の啓発普及事業	親子で地域活動に積極的に参加するよう広報・啓発活動に努めます。	生涯学習課	B	B				市子連フェスタ等の子ども会行事などホームページや防災無線等により啓発を図った。親子で参加できるような内容を工夫し参加者も増えた。
「家庭の日」の啓発普及事業	家族のふれあう機会を増やしてもらえるよう広報・啓発活動に努めます。	生涯学習課	C	B				市の広報誌や各会合、各研修会で広報・啓発活動を実施しているが、更に普及活動に取り組む必要がある。
成人教育推進	成人の学習機会を拡充し、成	生涯学習課	A	A				生涯学習講座や各種

事業	人の生きがいづくりに努めます。							学級を開設し、学習機会の提供を行い、市民の生きがいづくりに努めることができた。
高齢者教育推進事業	高齢者を対象とした学級を開設し、高齢者の生きがいづくりに努めます。	生涯学習課	B	B				高齢者学級20学級のうち、12学級を開設。感染対策を講じながら学習を行うことができた。
人権教育推進事業	同和問題をはじめとする人権課題解決のための学習機会の確保や広報等の工夫に取り組み、差別のない社会をめざします。	生涯学習課	B	B				成人学級等において人権教育講話を行い、偏見と差別をなくす取組を行った。今後は、広報や啓発資料を充実させる必要がある。

(2) 子供の読書活動の推進

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
市立図書館等管理運営委託事業	市立図書館の管理運営を指定管理者に委託し、利便性の向上と読書活動の活性化を図ります。	生涯学習課	A	A				認定特定非営利法人ぷれでおと指定管理契約を締結し、読書活動推進の向上のため、毎月連絡会を行う

								など、連携して図書館運営を行った。

(3) 文化財の保護・活用

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
郷土芸能育成事業	郷土芸能の保存及び伝承を図るために、保存会等への補助を行います。	生涯学習課	A	A				活動実績のある保存団体等へ運営補助を実施した。
文化財案内板等の整備事業	市内の文化財及び史跡について案内板等を計画的に整備します。	生涯学習課	B	B				令和4年度は市内6箇所の案内板等の修繕を行った。 全ての文化財案内板の修繕について、優先順位を定め、修繕等を行う必要がある。
ガイドブック等作成事業	文化財や史跡、郷土芸能等をガイドブックにまとめ、市内外へ広報します。	生涯学習課	B	A				平成27年度に作成した文化財ガイドマップに、新たに指定された文化財を追加し800部作成した。
郷土資料館管理運営委託事業	市郷土資料館の管理運営を指定管理業者に委託し、資料の適切な保存と管理を行います。	生涯学習課	B	B				指定管理者である「ぷれでお」において、資料の適切な保存と管理が実施できた。

〈スポーツ・文化の振興〉

(1) スポーツの推進・充実

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
健康づくり事業	健康教室等を開催し、市民の健康づくりを支援します。	スポーツ推進課	A	A				健康教室を新たに1講座増やし、より市民が参加しやすいように工夫した。
スポーツ大会推進事業	市民参加のスポーツ大会の開催のほか、各種スポーツ大会の後援を行います。	スポーツ推進課	C	B				コロナの影響でミニバレーボール大会は実施できなかったが、校区対抗バレーボール大会は例年並みの校区の参加団体の参加を得られ、実施できた。
スポーツ指導者育成事業	スタートコーチ養成講習会の開催による指導者育成と資質の向上を図ります。	スポーツ推進課	B	B				コロナ禍だったが、スタートコーチ養成講習会が開催され、参加することができた。
スポーツ少年団活動支援事業	スポーツ少年団の団員確保と活動支援を行うとともに、少年団交歓大会の開催などによる交	スポーツ推進課	C	B				少子化の影響で登録団体数が減ったものの4年ぶりに交歓大会を

	流を促進します。							開催できた。
競技会等参加費補助事業	全国大会及び九州大会等への参加経費を補助し、競技力の向上を図ります。	スポーツ推進課	C	A				これまでにない多くの選手が全国大会に出場し、また、新たに中学校の部活動に対する補助も行った。
ニュースポーツ普及事業（地域づくり事業）	ニュースポーツの講習会による指導者の育成と普及を図るとともに、地域におけるスポーツの活性化を図ります。	スポーツ推進課	A	A				ボッチャの贈呈を受け、このことを広報し、希望する学校に貸し出し活用することができた。
コミュニティスポーツクラブ設置促進事業	様々なスポーツの体験ができるコミュニティスポーツクラブの設置を促進します。	スポーツ推進課	C	D				コミュニティスポーツクラブの設立希望者との交流ができなかった。
チャレンジアップスイミング教室	水泳の苦手な小学生を対象にした水泳教室を開催します。	スポーツ推進課	D	B				コロナの影響により、募集の対象・人数も見直し、3年ぶりに実施できた。
海の子カーニバル	たくましい青少年の育成を目的に、主にチャレンジアップスイミング教室受講生を対象とし	スポーツ推進課	D	B				チャレンジアップ教室生と海での練習を7月から始めたが、コロナ

	た遠泳を実施します。							の影響により途中で中止した。
海洋性スポーツ普及事業	本市の特性を生かしたカヌーの体験教室等を開催し、海洋性スポーツの普及と青少年の健全育成をめざします。	スポーツ推進課	B	D				コロナの感染症のため、キッズスクールが中止となり、カヌー体験等も実施できなかった。
海洋性スポーツ指導者育成	センターインストラクター研修会へ職員を派遣します。	スポーツ推進課	D	D				今後、資格を有する職員の確保が課題である。

(2) 体育施設の整備と活用

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
総合運動公園施設整備事業	総合運動公園内の体育施設等の整備、改修等を行います。	スポーツ推進課	C	C				総合体育館ほか長寿命化計画策定業務委託を行い、今後、計画的に施設の改修を行う予定である。
海洋センター施設整備事業	B＆G海洋センターの各施設の改修等を行います。	スポーツ推進課	C	C				今後、計画的に施設の改修を行う予定である。
スポーツイベント推進事業	あくねボンタンロードレース大会及び九州選抜高等学校駅伝競走大会を継続して開催するほ	スポーツ推進課	D	A				新型コロナウイルス感染症対策を講じ、ボンタンロードレース大会

	か、交流人口の拡大に資するスポーツイベントを検討します。							や高校駅伝を３年ぶりに開催できた。
スポーツ合宿誘致推進事業	合宿誘致を推進し、施設の有効活用を図るとともに、地域経済の活性化に努めます。	スポーツ推進課	B	B				徐々にコロナ禍前の状況にもどりつつあり、施設の活用が増えた。
特別国民体育大会推進事業	２０２３年開催の国体に向けた準備を行うとともに、正式競技のボクシン競技、デモンストレーションスポーツを開催します。	スポーツ推進課	C	C				デモスポは新型コロナウイルス感染症のため中止したが、国体に向けた各種大会視察や競技団体との協議を行い、準備を進めている。

(3) 文化・芸術活動の推進

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
市総合文化祭	学習機会の発表の場である市総合文化祭を開催します。	生涯学習課	A	A				コロナ対策を講じ、展示及び演芸の両部門を開催した。 本年度は例年通り２日間の開催とした。 来場者は、2,134 人にのぼり、昨年度より 830 人増となった。

自主文化事業	市民ニーズに対応した音楽コンサート及び演芸会等を定期的に開催します。	生涯学習課	B	B				今年度は、新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら自主文化事業を行った。昨年度まで行っていた人数制限も解除し、8事業を行った。
文化・芸術鑑賞事業	青少年のための芸術鑑賞事業の実施や社会教育関係団体等の鑑賞活動等の支援を行います。	生涯学習課	A	A				自主文化事業や青少年劇場、巡回公演事業などを実施し、児童生徒の芸術鑑賞の機会の充実を図った。
あくね洋画展開催事業	文化・芸術レベルの向上と市民意識の高揚を図ることを目的に継続して開催します。	生涯学習課	A	A				市制施行70周年を記念する特別展として新たに市制施行70周年記念賞等を設け開催した。 1,319名の来場者があり、一般・高校生の部の出品数が増え、作品レベルの向上が見られた。洋画展の充実につとめていきたい。
市立図書館等	市民のニーズに対応できる情	生涯学習課	D	C				財源の確保等について関

整備事業	報拠点としての役割を発揮できるよう、施設整備について検討を重ねます。							係課で協議を行い、建設に向けた準備段階に入った。
合宿等誘致推進補助事業	文化活動を行う団体が市内で合宿等を行う費用を補助します。	生涯学習課	C	C				今年度は、補助金の申請がなかった。

方向性

４　社会全体で子供を育てます

〈地域とともに歩む学校〉

基本施策

(1) 地域の拠点としての学校づくり

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
『地域が育む「かごしまの教育」県民週間』	現在実施している授業参観等、保護者・地域住民への学校開放に関わる行事等を、可能な限り、この期間に実施します。	学校教育課	A	A				コロナウイルスの感染拡大を防止する対策をとって、計画的に実施することができた。
学校運営協議会（再掲）	本年度の年間計画、活動等を確認するとともに、各学期の活動についての話合いを行います。 各学期の評価・反省を行うとともに、次年度の教育課程、教育活動等について確認します。	学校教育課	A	A				全ての学校が学校運営協議会を設置した。学校運営の充実をめざした協議を行うことができた。
学校施設等維持補修事業（再掲）	校舎等において、老朽化などにより修繕が必要な個所の維持補修を行います。 児童生徒が安全・安心の中で	教育総務課	B	B				校舎等の老朽化により、修繕が必要な個所が増えている。 緊急性を考慮し、優先順位を付け、

	充実した教育活動が行えるよう、施設の維持・修繕に努めます。							施設の維持・修繕に努めた。
学校施設等整備事業（再掲）	学校規模適正化の状況と合わせ、平成30年7月に制定した阿久根市学校施設長寿命化計画に基づき、大規模改修や改築による整備を行います。 また、トイレの洋式化を進めます。	教育総務課	B	B				今年度は計画の見直しを実施した。これに基づき、老朽化した学校施設学校規模的適正化に関する検討との整合性を図りながら大規模改修を計画的に進める。 また、折多小学校12号棟トイレは便器を洋式に照明をＬＥＤとし環境を整えた。今後も計画に沿って洋式化を進める。

(2) 青年活動の充実

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
少年団体活動支援事業	ボランティア活動や研修等を通して、子ども会活動の充実や	生涯学習課	B	A				市子連フェスタによる体験教室の充実をはじめ、ジュ

	ジュニアリーダーの育成を図ります。							ニア・リーダークラブＢＡＭＢＩによる活動発表やボランティア・研修会等を通じてジュニアリーダーの育成に努めた。
体験活動推進事業	あくねキッズスクール等、阿久根の自然を生かした体験活動を実施し、たくましい青少年の育成を図ります。	生涯学習課	B	B				コロナ禍で実施ができない事業があったが、県との共催事業や科学体験教室等で体験活動を展開し、青少年の健全育成を図ることができた。

(3) 学校施設の有効活用

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
学校施設開放事業	体育館等を開放することにより、住民の健康づくりと社会体育の普及に努めます。	スポーツ推進課 教育総務課	B	B				学校開放に当たり、学校・住民からの問合せも特になく、順調に事業が進んだ。
福祉部局との連携	定期的に放課後対策等について、教育委員会と福祉部局で協議の機会を設定するとともに、実施状況や問題	教育総務課 学校教育課 福祉課	A	A				学校教育課が所管する「あくねす」の運営や福祉課が所管する「子どもの学習支

	などを常に共有し、事業検証や問題解決に対応します。							援事業」において連携を図った。

〈地域全体での見守り〉

(1) 地域で見守る環境づくり

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
青少年健全育成事業	市青少年問題協議会や校外生活指導連絡会を開催し、関係機関・団体と連携を図りながら、青少年の健全育成に努めます。	生涯学習課	B	B				警察や学校及びＰＴＡと連携して、長期休業中や花火大会における街頭補導など防犯活動を展開した。

(2) 子供を見守るネットワークの構築

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
スクールガード・リーダー配置事業（再掲）	学校や通学路における安全を確保するために、警察官ＯＢや防犯の専門家等をスクールガード・リーダーとして委嘱するとともに、各小学校区を巡回指導します。	学校教育課	A	A				各小学校に適切に配置し、計画通り実施することができた。
市水難事故防止対策連絡会	海、堤防、河川、河口付近、湖沼、池、側溝、港、その他遊泳禁止区域における児童生徒の事故を	学校教育課	B	A				計画通り実施することができた。

	防止するため、現地視察を行い、水難事故防止対策を徹底します。							
青少年健全育成事業（再掲）	市青少年問題協議会や校外生活指導連絡会を開催し、関係機関・団体と連携を図りながら、青少年の健全育成に努めます。	生涯学習課	B	B				警察や学校及びＰＴＡと連携して、長期休業中や花火大会における街頭補導など防犯活動を展開した。

(3) 警察との連携強化

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
スクールガード・リーダー配置事業（再掲）	学校や通学路における安全を確保するために、警察官ＯＢや防犯の専門家等をスクールガード・リーダーとして委嘱するとともに、各小学校区を巡回指導します。	学校教育課	A	A				各小学校に適切に配置し、計画通り実施することができた。
市安全指導研修会（再掲）	地震、津波等の非常災害時の危機管理、不審者事案に対する対応、その他安全に関する研修会を実施します。	学校教育課	B	A				不審者対応について外部講師を招聘し、充実させることができた。
市水難事故・交	水難事故の防止、交通安全教	学校教育課	B	A				計画通り実施し、関係

通事故防止対策連絡会（再掲）	室によるヘルメット着用の徹底と、地域ぐるみの交通事故０運動の実践に努めます。							機関と学校が意見を交換することができた。

〈切れ目のない支援〉

(1) 地域、関係機関との連携強化

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
教育相談	関係機関からの情報や就学時健康診断を通して、未就学児の特性を把握し、必要に応じて、教育相談、発達検査等を実施します。また、就学相談を行います。	学校教育課	A	A				コロナ禍で日程の再調整を行い、学校や園、保護者の要望に応じて、計画通り実施できた。
移行支援シートの活用	移行期における学校間連携について、文書等により確実に引継ぎを行います。	学校教育課	B	A				昨年度の反省を生かし、各園や鶴翔高等学校、療育機関との連携を図ることができた。

(2) 福祉との連携強化

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
県スクールカウンセラー配置事業	問題行動、不登校等に適切に対応するためスクールカウンセラーを配置しま	学校教育課	A	A				小・中学校の要請に応え、適切に配置することができた。

（再掲）	す。							
スクールソーシャルワーカー活用事業（再掲）	関係機関との連携・調整を図り、児童生徒に関する諸問題の解決を図ります。	学校教育課	A	A				問題行動や不登校への対応に加え、「あくねす」においても児童生徒に寄り添った対応を実施することができた。
子ども・子育て会議放課後児童部会	全ての就学児童の放課後対策と学校施設の放課後事業への活用について、協議する場を設けます。	福祉課 教育総務課 学校教育課	D	D				放課後児童部会は、開催することができなかった。

(3) 医療との連携強化

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
児童生徒の健康診断	学校保健安全法第 13 条に基づき、全ての児童生徒の健康診断を行います。	学校教育課	A	A				コロナ禍のため開催方法の変更や感染対策を講じることで、計画通り実施することができた。
就学時健康診断	学校保健安全法の第 11 条に基づき、次年度に小学校に入学予定の幼児の健康診断を行います。	学校教育課	A	A				感染症対策を行いながら、適切に実施した。

学校フッ化物洗口事業	むし歯予防のため、各小・中学校において、フッ化物洗口を実施します。	健康増進課 学校教育課	A	A				令和４年10月から市内全ての学校で実施している。

〈企業等との連携・協働〉

(1) 高校との連携・協働の推進

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
小・中・高学力向上推進協議会（再掲）	市内の小・中学校と県立鶴翔高等学校が、共通テーマを設定し、研究授業等を通して学習指導法の改善に取り組みます。	学校教育課	A	A				継続した取組から、各学校における指導の平準化、指導方法の改善が図られている。
あくねよかとこ教育事業（再掲）	あくねよかとこ教育を通して、市内の小学５年生から中学３年生の児童生徒が、「将来をどう生きるか？」について考えるとともに、学ぶ意欲を高め、学力の向上に寄与します。	学校教育課	A	A				令和３、４年度の２か年で、県の研究指定を折多小、鶴川内中が公開授業を行った。各学校において、めざす児童生徒像を設定し、基礎的・汎用的能力の育成を図ることができた。

(2) 企業との連携・協働の推進

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
あくね	「あくねよか	学校教	A	A				令和３、４

よかとこ教育事業（再掲）	とこ先生」に登録している方を講師として学校に招き、キャリア教育の一環として、講話や体験活動等を行います。	育課						年度の2年間、県の研究指定を受けた。折多小、鶴川内中の公開授業に向けて、計画的によかとこ先生を活用した。

(3) 地域との連携・協働の推進

事業名	事業内容	担当課	3年度評価	4年度評価	5年度評価	6年度評価	7年度評価	評価の理由
地域学校協働活動推進事業	地域と学校をつなぐコーディネート機能の充実を図り、個別の活動の総合化・ネットワーク化を図ります。	生涯学習課	B	C				生涯学習課に推進本部を置き、学校に対する協力活動など、コーディネートを行うことができた。人材リスト等を整備する必要がある。

令和５年度「教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書」についての教育委員評価

１　教育委員会の令和４年度活動内容について
教育委員会定例会や必要に応じ臨時会を開催し、教育委員会の基本方針を初め、規則・要綱等の制定・改正・予算等についての議案などを審議・議決した。議案等については、事前に配布され、事務執行報告や行事予定を通して事務局との情報共有が図られている。 これらの内容については、会議録を市のホームページ上で公開しており、委員会活動の実績、成果を含め、市民への情報発信はなされており評価できる。しかし、コロナウイルス感染症の影響により、移動教育委員会が実施されなかったことは残念であり、保護者、地域住民との教育行政の相互理解を深めるためにも、状況をみて実施する必要がある。 また、教育委員の研修体制は充実しており、国、県主催の研修会へ積極的に参加し、各地域の実態や取組、問題点について情報共有や意見交換が行われ、意義のあるものとなった。教育行政の中立性、安全性、持続性を確保し、時代に即した教育の在り方等を学び続けられるよう、今後も継続した取組をお願いしたい。 学校への訪問や学校経営説明会では、学校の経営方針や施設の把握、児童生徒の実態や今後の課題等も分かり、情報を共有することができたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、入学式、卒業式、運動会などの学校行事で人数制限や時間短縮の措置がなされ、出席する機会に限りがあった。出席可能な行事等については出席し、実態の把握に努めた。 学校訪問や県民教育週間を通して、児童生徒は、学習活動や学校行事を通して望ましい人間関係を形成し、集団への帰属心、所属感、連帯感を深めていることが伺える。また、いじめ問題や不登校問題については、定期的にアンケートを取り、気付いた時点で組織的・継続的に問題解決を図り対応している。さらに、学校と教育委員会の連携が密に取られ、学力向上、生徒指導、特別支援教育、キャリア教育、生涯学習、スポーツ活動等も充実が図られていることから、さらなる教育活動の推進、並びに教育行政の充実発展を期待したい。 学校規模適正化に関しては、将来の規模の在り方について、保護者、地域の方々と意見を交わすことを可能な限り努めた。今後も継続して開催し、将来の児童生徒の未来像を見据えた上で、今後の方向性を検討し、決定してもらいたい。
２　各事業への要望や意見
確かな学力の定着をめざし、各学校の教職員が積極的な研修参加や研究授業など課題の把握に努め、授業改善や個別の指導などの対策をとってきた成果が子供の可能性を伸ばす主体的対話的な相互の学び合いを深め、学力の向上へとつながっている。また、小・中一貫教育推進事業では、その推進に係る準備委員会を設置し、連

携型の研究校(小２・中１)を指定し、共通実践事項等を含め取組の検討を行った事は評価したい。

外国語教育では、小学校へ中学校教員を派遣し、中学校と連携をとりながら、外国語を学ぶ機会が増えている。高校や大学への進学も見据えて、英検を受験する機会も増やしていけるよう、環境作りもお願いしたい。

特別支援教育では、障害の内容や程度に応じた指導法が研修を通して実践され、一定の成果を上げている。また、子供の自立と社会参加を見据え、関係機関との連携も取りながら、発達に応じて継続していくことが望ましいことから、今後も教職員の指導力向上への取組をお願いしたい。

ＩＣＴ環境の整備は、ＧＩＧＡスクール事業において、校内のネットワーク整備に加え、児童生徒に一人一台のタブレット導入により、北薩地区でも最前線の教育環境が図られ、臨場感溢れる実践活動が展開されている。さらに、持ち帰り学習も始まり、使い方も多様化するなど、学習への意欲、関心を高め、深い学びへとつながっている。今後も、指導方法の改善を図りながら、ICT 機器を活用し、児童生徒の学力向上につなげていくことが重要である。

道徳教育、生徒指導、人権教育の充実により、良好な人間関係・集団作りが行われている。今後も、地城応援団、保護者、市全体の中学生会議に見られるように、それぞれの役割を果たしつつ、連携して将来を担う子供達の心豊かな人格形成に努めてもらいたい。

体力・運動能力調査の結果を見ると、継続して取り組んできた種目において、体力の向上が見られる。朝の時間の体力つくりや授業の中での補強運動などを取り組み、体力向上をめざした努力が見られる。しかし、学校全体でみると柔軟性が課題の学校も多く、日頃からのストレッチや体ほぐし運動などに取り組む必要がある。

児童生徒が安全で安心して学ぶ環境作りは、学校施設等の維持補修が必要である。古い学校施設が多い中、安心安全な学校生活ができるようトイレの洋式化やＬＥＤ照明への取替など、計画的に教育環境を整えていることは高く評価できる。しかし、校舎等の老朽化により、修繕が必要な箇所が増えていることから、緊急性を考慮し、優先順位を付けて、施設の維持・修理に努めつつ、計画の見直しはもとより、学校規模適正化の進捗状況を考慮した整合性のある改修や改築が必要と考える。

栄養教諭の派遣・活用や食に対する指導は、計画通りに実施できなかったものの、学校給食地産地消推進事業で地元食材を活用し、食育の啓発に取り組み、地元の特産品や産業について学び、食材への関心を高めたことは評価できる。食材が高騰する中、安定供給できるよう、今後も関係機関との連携を図り、安心安全を基本に栄養のバランスのとれた給食が提供できるよう引き続き努めてほしい。

生涯学習講座をはじめ社会教育についても、充実が図られている。多くの講座が設置され生きがいのある住みよいまちづくりなっている。年齢や性別に関係なく、学習の場を広げ、視野、知識や教養も高め、より豊かに充実した人生を送りたいという市民の方が今後も増えていくように継続した取組をお願いしたい。

市総合文化祭やあくね洋画展では、工夫を重ね、来場客の増加などで盛り上がり

を見せており、高く評価したい。青少年の育成の日や家庭の日にあわせ、広報・啓発活動を進め研修内容も充実しさらに参加者も多くなっている。日頃から家族のふれあう機会を増やし、家族間の真心を知り、心をつかみ合うことができるようにしてもらいたい。

市立図書館の整備事業は、整備に要する財源確保が難しい状況であるが、各課で協議を行い、建設に向けた準備段階に入った事は評価できる。図書館は地域の記憶を残し、伝える場でもある。検討をさらに進め、早期実現に向けて取り組んで欲しい。

市民の健康づくりを支援するなど、スポーツ推進事業の推進・充実に努めている。健康づくり事業では講座を増やし、スポーツ大会推進事業は、状況を見ながら開催方法を模索し、市民が参加しやすいように工夫し実施できたことは高く評価できる。

コロナ禍の中で運営上様々な影響があったが、概ね計画通り進んでいる。さらに、市民のスポーツへの参加を促し、生きがいのもてる地域づくりに寄与してもらいたい。

特別国民体育大会推進事業は、２０２３年開催に向けて準備が整いつつある。これまでの経験を活かし、見直しが必要な点を改善しながら進めており評価できる。大会成功に向けて広報活動に力を入れ、市民一丸となれるよう、さらに拍車をかけてほしい。

学校規模適正化事業は、第２次基本方針の基本的な考え方は維持しつつ、令和６年４月の統・廃合は行わない等の一部が変更された。学校の児童生徒数は、減少傾向にあり、教育環境が大きく変わる中、複式のクラスも増えることに伴い、教職員の負担も大きくなっている。今後の学校の現状を踏まえ、保護者、地域の方々も含め、多様な立場の者が協働的に議論しながら、納得解を生み出すことが求められる。

３　総括（全体としての意見）

継続事業では、課題の改善を図りながら実施し、事業の大半を概ね計画通りに進めているものと認める。各課、学校を含む関係機関との連携を密にし、各施策においてスピード感をもって取り組み、感染予防対策や短縮開催などの工夫をした結果、成果として確実に出てきている点は評価できる。

学校教育では、教師一人一人が使命感と情熱をもって日々努力し、指導係の指導、支援のもと、授業力の向上、指導法改善に向けて成果を上げた結果、確かな学力の定着につながっている。また、家庭の教育力の向上や就学時の経済支援策として、「就学援助費」、「家庭教育支援事業」、「家庭サポート教室」、「幼児教育事業」、さらに進学時の支援策として奨学金事業などもある。このように教育行政は、関係機関や地域の民生委員・児童委員と一体となり、未来ある子供を育てている。これらについては、年間を通して広く市民に啓発すべきではないか。その他にも、

タブレット学習を導入したことを機会に、不登校児童生徒のリモート授業も検討してみてはと考える。

スポーツを通しての健康づくりは、とても重要であり、新型コロナウイルス感染症の５類感染症への移行に伴い、感染対策も個人に委ねるなど緩和され、少年団活動やスポーツイベントなども徐々に活気が戻りつつあると感じる。10 月には、燃ゆる感動かごしま国体を予定し、開催に向けて準備が着々となされている。改善すべきところは見直しながら、実行委員会を中心に市民総出で開催を盛り上げ、おもてなしの機運を高めてほしい。

将来を担う児童生徒の豊かな人間性や社会性を育むため、学童期は、集団の中で話しあったり、協力したり、励まし合い切磋琢磨していくべき大切な時期である。そのためにも、子供の将来性を鑑み考えることが必要と考える。もちろん、学校は地域コミュニティーとしの社会的な役割もある。あらためて考えた場合、「子供は集団を通して育つ」とも言える。学校は、子供と教師で「創る」「育ち合う」という新しい営みであり、集団を通して形成され活力を生み出す源泉となっている。

少子化に伴う学校の小規模化が急速に進む中、学校規模適正化に関するこれまでの取組との整合性を図りながら、基本的な方向性は維持しつつ、令和６年４月の統・廃合は行わない等の方針の一部を変更している。

学校の統・廃合は、将来避けて通れない問題である。継続して保護者、地域住民と慎重に話し合いを重ね、児童生徒数の動向にも注視しながら、計画の新たな方向性を見出してほしい。

社会構造が激変し、世界情勢が混迷を深める中で、この状況を切り開くためには、教育力の向上に尽きると考える。「教育のまち　あくね」をめざして、阿久根市の基本目標である「主体的に学び社会とかかわり未来を創るひとづくり」のもと、子共たちが心豊かに育つように教育環境、市民の皆さんが心身共に健康で「生きがい」をもち、より良い人生を送ることができるよう、今後も引き続き継続した取組をお願いしたい。